

事業名：キャリア教育実践モデル開発事業

学校名：竹原市立竹原中学校

所在地：竹原市下野町2230番地

HP：http://www.takahara-takahara-j.hiroshima-c.ed.jp/

規模：16学級 530名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

① 研究テーマ

生徒の学習意欲を高め、勤労観・職業観を育むキャリア教育の推進 ～夢と目標を持って自己の進路を切り拓く生徒を育成する体験学習プログラムの開発～

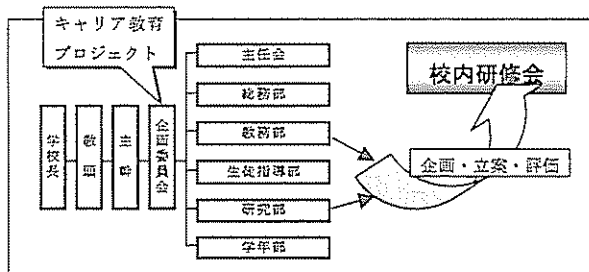
② 研究のねらい

本研究は、中学校3年間の学校教育活動全体を通じて、生徒一人一人の勤労観・職業観を育成するキャリア教育のカリキュラム「キャリア教育竹原中学校プラン」を開発することをねらいとし、次の4分野の研究内容を推進する。

- ・「勤労観・職業観」の育成を軸とした体験学習プログラムの開発
- ・キャリア・アドバイザーの確保と活用
- ・職場体験学習推進のためのシステムづくり
- ・保護者・企業等への効果的啓発のシステムづくり

(2) 研究組織・体制

企画委員会に「キャリア教育プロジェクト」を位置付け、教務部、研究部が連携してキャリア教育の計画立案にあたり、1～3学年部がキャリア教育を推進する。



(3) 研究内容

① 「勤労観・職業観」の育成を軸とした体験学習プログラムの開発

中学校3年間を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容の開発

- ・生徒の発達段階に応じて、キャリア発達を促すために育成することが期待される具体的な「勤労観・職業観」の到達目標を設定した、体験学習プログラムの開発
- ・学校の教育活動全体を通じて、キャリア教育を推進するための教育課程の在り方
- ・職場体験・上級学校訪問など、職業に関する体験的学習活動の教育課程への適切な位置付け

② キャリア・アドバイザーの確保と活用

産業や雇用等の現実を学び、勤労観・職業観を身に付けさせるためのキャリア・アドバイザーの確保及びその活用の在り方

- ・総合的な学習の時間、特別活動等、キャリア・カウンセリ

ング、教職員へのキャリア教育に関する校内研修等におけるキャリア・アドバイザーの活用

- ・「おやじクラブ」の組織化など、地域におけるキャリア・アドバイザーの人材確保の方策等
- ③ 職場体験学習推進のためのシステムづくり
学校・産業界・関係行政機関等による職場体験活動推進のためのシステムづくり
- ・職場体験、上級学校訪問など、職業に関する体験的活動を効果的に推進する学校と受入事業所、地元経済団体等との連携・協力体制の構築
- ・職場体験、上級学校訪問など、職業に関する体験的活動を効果的に推進する学校と家庭、PTA団体等との連携・協力体制の構築等
- ④ 保護者・企業等への効果的啓発のシステムづくり
キャリア教育の意義・必要性についての保護者・企業等の効果的な啓発の在り方

2 授業改善の視点

- キャリア発達の視点に立った学習活動を組み入れていくための、「キャリア発達に関わる諸能力」と各教科等との関連の明確化。
- 教科等での4領域8能力の中から決定した主たる能力1つと従たる能力1つを踏まえた授業実践。
- 生徒のキャリア発達を促すために、発達段階に応じた「勤労観・職業観」の到達目標の設定。
- 各学年の核となる体験学習（第1学年 宿泊体験学習 第2学年 職場体験学習 第3学年 上級学校訪問）を中心とした、事前・事後指導を充実させたプログラム開発。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

- ・昨年度の課題を踏まえて改善されたキャリア教育のカリキュラム「キャリア教育竹原中学校プランV.2.0」を作成した。本校の実践を具体的に示す「各学年の指導計画、指導案、指導資料、アンケート用紙」等をまとめた。
- ・アンケートや生徒作文等により、各体験学習によって生徒がどのように変容するか明らかになってきた。（具体例は4実践事例参照）
- ・学校と産業界、経済団体等との連携により、職場体験等、職業に関する体験的活動を支援する基本的な組織ができた。本年度は経済団体と学校が一体となって組織的活動ができており、事業所の新規開拓等に大きな成果が得られた。
- ・学校だより等の方法で啓発活動を行ったことにより保護者の本校キャリア教育への理解が得られた。

(2) 課題

- ・キャリア教育への事業所の理解を得るため、学校で進めるキャリア教育についての説明を継続していく必要がある。
- ・家庭におけるキャリア教育の推進するために、具体的な行動の指針を提示する必要がある。

(3) 今後の改善方策等

- ・現在のキャリア教育推進のためのシステムを発展させるため、協力を得られた産業界、経済団体等と学校の取組みの成果を、地域に積極的に発信する。
- ・家庭におけるキャリア教育の推進について、具体的な行動の指針を提示する。

4 実践事例

(1) 学年・教科等名

第2学年 総合的な学習の時間、特別活動

(2) 単元の紹介

① 単元名

「職場体験学習 キャリア・スタート・ウィーク」

② 単元の目標

ア 生徒のキャリア・スタート・ウィークを通して、望ましい勤労観・職業観を育ませ、地域社会と連携した組織的、系統的なキャリア教育を行い、将来希望する職業について自分の夢を語る力を育成する。

イ 働くことを体験しながら、人の役に立つことの意味を知り職業の大切さを学ばせる。

③ 単元の展開 (指導計画)

	生徒の活動	育成したい能力
事前学習	1 キャリア・カウンセリング(個人面接)の要領による 学校生活や学習の目標の明確化。	【自己の理解能力】
	2 職場体験希望調査の受発。	【選択能力】
	3 事前アンケート調査の受発。	【自己の理解能力】
	4 適性検査(PAS-D)とキャリア・カウンセリング(個人面接)の受発。	【自己の理解能力】 【コミュニケーション能力】
	5 外部講師(ハローワーク竹原所長)の講話受発。	【役割把握・把握能力】
	6 受け入れ事業所の決定(第1・2希望91%)。願書履歴書の作成。	【選択能力】 【自己の理解能力】
	7 キャリア・アドバイザー(外部講師)による経過観察(ロールプレイ)。	【コミュニケーション能力】
	8 願書履歴書に基づく模擬面接の受発。	【コミュニケーション能力】
	9 事前訪問の取捨選択。	【コミュニケーション能力】
	10 事前訪問による職場体験準備。	【コミュニケーション能力】
	11 職場体験の個人目標の決定。	【課題解決能力】
	12 事前アンケート調査の受発。	【自己の理解能力】
	13 事前指導による危機管理の徹底。	【役割把握・把握能力】
職場体験	14 体験日誌の作成。	【自己の理解能力】
	15 体験指導者にインタビュー。	【コミュニケーション能力】
	16 出勤・退勤の連絡履歴。	【役割把握・把握能力】
	17 事後アンケート調査の受発。	【自己の理解能力】
	18 体験レポートを作成し、体験文集にまとめる。	【計画実行能力】
	19 受け入れ事業所へ、礼状を作成し、届ける。	【情報収集・探求能力】
	20 発表会を開いて、体験を共有し、自己の生き方にも示唆を得る。	【コミュニケーション能力】 【役割把握・把握能力】
事後学習	21 進路適性検査とキャリア・カウンセリング(個人面接)の受発。	【計画実行能力】
	22 上級学校訪問学習へのアプローチ(第3学年進級に向けて)。	【職業理解能力】 【課題解決能力】

(3) 授業改善のポイント

① 事前指導において生徒に体験活動の意義をしっかりと理解させるプログラムを組む。

- ・1学年時に「竹原に生きる人に学ぶ」をテーマに、竹原の産業や職業調べ等を組み合わせた総合的な学習の時間を教育課程に位置付け、2学年での職場体験の事前学習としている。
- ・キャリア・カウンセリングや進路適性検査、願書履歴書作成等により自己理解を促進させる。
- ・外部講師講話や保護者インタビューにより、働くことの意義等を理解させる。
- ・授業指導や電話のかかた方の指導、面接練習等により、体験に必要なスキルを身につけさせる機会を持つ。

② 事後にまとめる話し合いや発表会を計画する。

- ・文章が構造化された体験レポートを作成することにより、より深く体験の意識化を図る。しかし、自由に書いた体験レポートを各自が構造化し直すことは、中学2年生にとって難しい。そこで、「志望理由」、「個人別目標と理由」、「体験して学んだこと」等、表題ひとつひとつについてそれぞれ書かせることで、レポートの構造化を図っている。そのため、国語科を中心にして、授業の中で文章の構成や論理的な文章の書き方などを学習した。
- ・事業所ごとにグループを作り、学習した内容について話し合わせ、1枚の模造紙にまとめさせる。
- ・事業所、保護者へ公開された学習報告会を実施する。全生徒が発表することにより、生徒のプレゼンテーション能力を育成する。各教科の授業においても、小グループで考えた結果をまとめ発表する場を設定している。

・文化祭では代表者がステージ発表し全事業所の模造紙を学年掲示して、1学年へのガイダンスとなるようにする。

③ 生徒の学習段階に応じたキャリア・カウンセリングを実施する。

- ・事前1回目…学校生活や学習の課題の明確化を図る。特に、生徒が成果を上げている内容を話し、意欲や自己有用感を持って体験できるきっかけをつくる。
- ・事前2回目…適性検査や職場希望調査を元に、事業所選択に必要な情報を示す。
- ・事後…意欲的に体験できなかった生徒や事業所の評価が低かった生徒について、職場体験にどのような意義があったかを見つけ出す支援をする。

④ 評価の工夫

- ・事前、事後のアンケートを行い、生徒の変容を把握し、体験プログラムの改善に生かす。
- ・体験日誌のアンケートにより、生徒の仕事に対する理解等が5日間でどのように変容するかを把握する。

(5) 成果

右の図は、職場体験学習終了後にアンケート調査を実施した結果の一部である。この結果により、次のような成果があったと考える。

- ・仕事の「喜び、楽しさ、

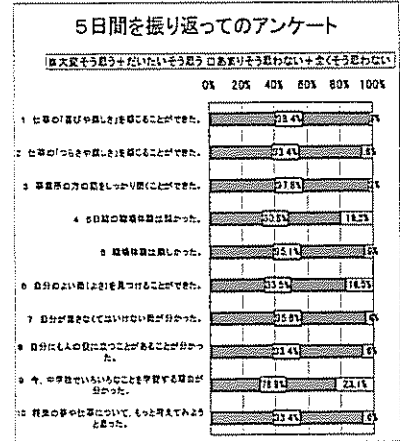
つらさ、厳しさ」を多くの生徒が体験した。また、職場体験の5日間を短く感じていた。(1~5)

・自分のよさに気づき、また、直さなくてはならないものを理解した。(6, 7)

・職場体験で、生徒は人の役に立つことができること(自己有用感)を感じた。(8)

・多くの生徒が、学習する意義を理解し、将来の夢や仕事について考えた。(9, 10)

キャリア・スタート・ウィーク生徒アンケート結果 (その1)



右の図は5日間の職場体験の1日ごとに生徒の自己評価結果を示している。5日間で、職場では積極的にコミュニケーションする必要があることに気づき、自分の適性にあった職業を考えるようになっていく生徒の変容が見られる。

(6) 課題

- ・体験的活動に関わる事前・事後指導時数の軽減と質的向上が必要である。

キャリア・スタート・ウィーク生徒アンケート結果 (その2)

